

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 49 週(12 月 1 週 12/4 ~ 12/10)

平成 18 年 11 月分月報

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

- ・ 注意する感染症
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 平成 18 年 11 月分月報
- ・ 感染症だより (11 月後半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2006 年 11 月 24 日 (81 巻 47 号)
b 型インフルエンザ桿菌ワクチン
WHO 国際検疫病情報
2006 年 12 月 1 日 (81 巻 48 号)
ポリオ根絶助言委員会勧告
HIV 調査報告のための検査法
WHO 国際検疫病情報
- ・ 五類定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

注意する感染症

集団かぜの発生について (第 3 報、第 4 報)

愛知県は 12 月 11 日、および同 12 日、瀬戸保健所管内における集団かぜ発生に関する情報を発表しました。概要は、以下の発表内容をご覧ください。

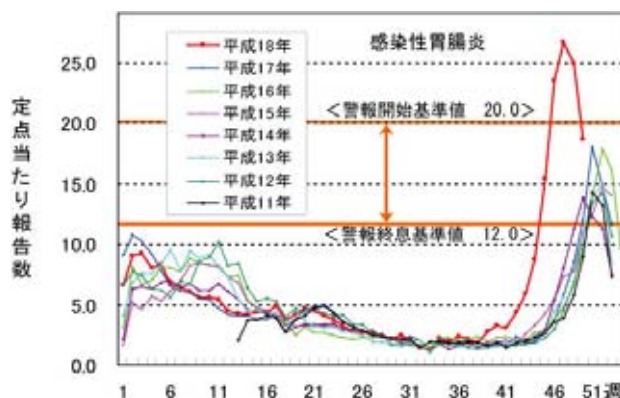
- ・ 第 3 報 (12 月 11 日発表分) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo061211.pdf>
- ・ 第 4 報 (12 月 12 日発表分) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo061212.pdf>

感染性胃腸炎

49 週の定点あたり患者報告数は 18.6 人(前週比 0.7 倍、4,520 人 3,384 人)と減少しました。警報は終息基準値 (12.0 人) 未滿になるまで続きます。引き続き患者発生には十分注意してください。

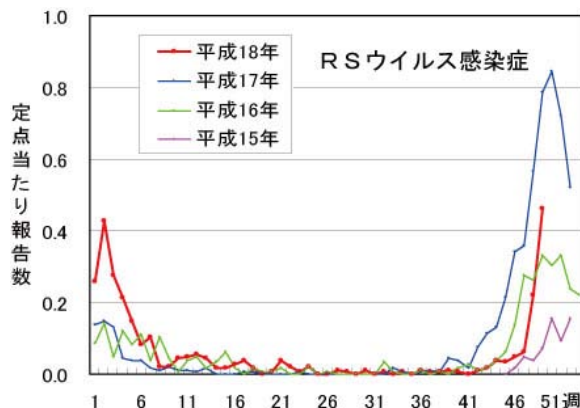
感染性胃腸炎に関する警報発表 (11 月 24 日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo061124.pdf>



RSウイルス感染症

49 週の定点あたり患者報告数は 0.46 人、前週比 2.1 倍 (40 人 84 人) と急増しています。定点医療機関からの入院例に関するコメントもみられます。



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

49 週の定点あたり患者報告数は 2.12 人、前週比 1.2 倍 (311 人 385 人) です。引き続き流行には注意してください。

参考ページ「溶血性レンサ球菌咽頭炎」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yourenkin.html>

愛知県感染症情報センター <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

感染性腸炎減少傾向
溶連菌感染、アデノウイルス感染めだち
ます。

【一宮市 あさのこどもクリニック】
5歳男 サルモネラ感染(胃腸炎) サル
モネラO9

【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌O1 0歳男、O20 2歳男

【一宮市 城後小児科】
犬山市のノロウイルスの流行のピークは
11月の第3、4週でした。以来、罹患者数
は毎週ごとに指数関数的に半減していま
す。飛沫感染による伝播が疑われました。
ロタウイルスと思われる胃腸炎が出てきて
います。

【犬山市 武内医院】

RSウイルス感染症大流行。6か月以下で
2例の入院あり。

感染性胃腸炎は減少しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
感染性胃腸炎少し減少してきました。
溶連菌感染症、アデノウイルス感染症各7
名ありました。

一保育園で水痘の流行がみられています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】
水痘散発して居ます。
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜがまだまだ続い
て居ります。

【春日町 丹羽医院】
感染性胃腸炎46名 流行中です。

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

感染性胃腸炎は少なくなりましたが、溶
連菌感染症が増えました。

肺炎を含むマイコプラズマ感染が相変わ
らず多い。

インフルエンザB型1名。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】
インフルエンザ12名は全てB型でした。

溶連菌感染症も小流行続いてます。

感染性胃腸炎は少し落ち着きました。

その他、水痘、伝染性紅斑等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
RSウイルス感染症が増えています。

【春日井市 春日井市民病院】

胃腸かぜ、水痘多数。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

RS細気管支炎増加中。

感染性胃腸炎流行続く。

【小牧市 小牧市民病院】

RSウイルス感染症増加し、2名入院。

アデノウイルス感染症、溶連菌感染症も増
加、感染性胃腸炎はやや減少傾向しました。

【小牧市 志水こどもクリニック】
感染性胃腸炎が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
10歳女、4歳女2名、9歳男、6歳女、3
歳男、3歳女、マイコプラズマ肺炎

【美浜町 厚生連知多厚生病院】
胃腸炎流行続いてますがピークは過ぎた
ようです。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳女、5歳男、6歳女、7歳男女、8歳
男 strepA (+)

4歳女、5歳女、6歳男女 キャピリアア
デノ(+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

カンピロバクター(+)13歳男

胃腸かぜはピークを過ぎたもよう

RS(+)の7か月児入院

【岡崎市 花田こどもクリニック】

10か月女 病原性大腸菌O-124 VT(-)

42歳女 伝染性紅斑

12歳男 溶連菌感染症 他

感染性胃腸炎減ってきました。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

7か月女、5か月女 病原性大腸菌O18
(+) O1(+) VT(-)

3歳女 カンピロバクター(2人)

【岡崎市 にいのみ小児科】

6歳男 カンピロバクター、病原大腸菌
O1

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

溶連菌感染症増加

【碧南市 永井小児クリニック】

Myc o. 6歳、3歳

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザA型

【安城市 厚生連安城更生病院】

感染性胃腸炎 38名と減少

手足口病 6名(口内炎が目立つ)

伝染性紅斑 7名と多い

咽頭結膜熱 1名

溶連菌感染 9名

川崎病 1名

【知立市 宮谷クリニック】

マイコプラズマ肺炎 13歳女

感染性胃腸炎が大流行中です。

【三好町 三好町民病院】

感染性胃腸炎が相変わらず多いが、ピーク
は過ぎたようです。

【西尾市 やすい小児科】

4歳男病原性大腸菌O1(VT-)

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

アデノ扁桃炎 A群溶連菌感染症の児が
時々います。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
5歳女 4歳男 マイコプラズマ肺炎
【豊橋市 医療法人野村小児科】

重症ムンプス2名あり。
インフルエンザ桿菌(BLNAR*)敗血
症、肺炎6か月児あり。
セラウス(?)菌の敗血症2歳児あり。
【豊川市 豊川市民病院】

*BLNAR; -lactamase-nonproducing ampicillin-resistant Haemophilus influenzae
(-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性インフルエンザ菌)

一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

腸チフス (二類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	衣浦東部	35	男	12/1	12/4	12/5	推定感染地域; インド

腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	O血清型、ベロ毒素型
1	豊川	80	女	12/1	12/2	12/5	O157、VT1・VT2 (+)

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

つつが虫病 2例 <うち1例は50週報告分>

レジオネラ症 2例

66歳

67歳 <48週報掲載分・再掲>

ウイルス性肝炎 1例 (B型、推定感染地域: 国内、推定感染経路: 性的接触)

<48週報掲載分・再掲>

11 月の一～五類感染症 (全数把握対象) 発生状況

「診断日」に基づく集計です。

平成 18 年度に発生のある疾病名 内は全数把握対象疾病数	平成 18 年 11 月			平成 18 年度 累 計 < 愛知県 >	内訳 (11 月)	
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全 体			
一類 感染症 7				発生報告無し		
二類 感染症 6	コ レ ラ			4 [2]		
	細 菌 性 赤 痢	1		1	24	
	腸 チ フ ス				3 (1)	
	パ ラ チ フ ス				3	
三類 感染症 1	腸管出血性大腸菌 感 染	8 (7)	3 (2)	11 (9)	189 (65)	0157 11 件
四類 感染症 30	E 型 肝 炎	1	1	2	3	
	A 型 肝 炎		1	1	7	
	つ つ が 虫 病				3	
	デ ン グ 熱	1		1	3	
	マ ラ リ ア				2	
	レ ジ オ ネ ラ 症	2	1	3	30	
五類 感染症 14	ア メ ー バ 赤 痢	1		1	31	
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 型 (E 型 肝 炎 及 び A 型 肝 炎 を 除 く 。)	1		1	6	B 型 1 件
	急 性 脳 炎 (ウ エ ス ト ナ イ ル 脳 炎 及 び 日 本 脳 炎 を 除 く)		1	1	7	
	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ ブ 病	1		1	6	孤発性 1 件
	劇 症 型 溶 血 性 症 レ ン サ 球 菌 感 染				3	
	後 天 性 免 疫 不 全 群 症 候	1	4	5	65	A I D S 2 件 無 症 候 性 3 件
	ジ ア ル ジ ア 症				2	
	髄 膜 炎 菌 性 髄 膜 炎				1	
	梅 毒	2		2	29	早期顕症 2 件
	破 傷 風				4	

[] 内は疑似症患者再掲

() 内は無症状病原体保有者再掲

五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 18 年 11 月			平成 18 年 10 月		
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	78	45	123	110	27	137
2	性器ヘルペスウイルス感染症	25	8	33	33	7	40
3	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	34	6	40	26	6	32
4	淋 菌 感 染 症	45	32	77	59	13	72
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	6	83	57	3	60
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	1	3	7		7
7	薬剤耐性緑膿菌感染症						

上記の報告数は感染症月報指定届出機関(性感染症 : 51、基幹 : 13 医療機関) で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
指定感染症 (1 疾病)	既知の感染症（一～三類感染症を除く）のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがあるもの。一年間に限定した指定。インフルエンザ（H5N1）が平成 18 年 6 月 2 日に指定された。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

いよいよ師走です。今年の流行語になってしまったメタボリックシンドローム対策としては大学教師も師走くらいは走るほうが良いのですが、実際はポケットに手をいれて背中を丸めて出勤している有様です。いつも貴重な情報を有難うございます。11月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはウイルス性胃腸炎が非常に増加（重症例の入院が目立つ）、マイコプラズマ感染症による肺炎・気管支炎も多くて入院が目立ち、11月19日から少数だがインフルエンザAあり、今のところ大きな流行ではない、城北病院渡辺先生からは急性胃腸炎急増、ロタ、アデノ陰性例が多くノロウイルス？アデノ、溶連菌もたまにあり、RSウイルス性細気管支炎増加、麻疹の姉妹例あり入院、接触者（ワンフロアの母親）に二次感染と思われる発病者あり。第二日赤岩佐先生からは嘔吐下痢症の入院が多く水痘の入院1名あり、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎ときどきで軽症、4歳女の子の水痘あり、三菱病院入山先生からはロタ、アデノ陰性で便培養も陰性の胃腸カゼで外来の点滴が多く、感染性胃腸炎10名と目立ち（入院4名）、病原性大腸菌O-18が2名、O-74、O-25、O-6、O-1、O-153、サルモネラO-9など）、A群溶連菌咽頭炎1名（入院1名）、咽頭結膜熱2名（1名入院）、マイコを含む気管支炎・肺炎の入院11名、RSウイルス入院1名、中京病院柴田先生からは外来では胃腸炎が多数で水痘がパラパラ、入院でも胃腸炎と仮性クループが目立つ、大同病院水野先生からはウイルス性腸炎が相変わらず多く、年齢は1～2歳代と成人にピークがあり、嘔吐腹痛（麻痺性イレウス）と嘔吐下痢が遷延、ロタ陰性の2種類あり、ウイルス性腸炎で下痢嘔吐が遷延して入院する例に肝機能障害がみられる例あり、RSウイルス感染症の入院少しずつ増加とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎は漸減、感染性胃腸炎が多発中、年齢層は乳幼児から小中学生、成人にまで広がったが15～19歳の所は少ないようだ、江南市昭和病院小児科からは感染性胃腸炎（入院目立つ）とマイコプラズマ感染症（入院目立つ）、溶連菌感染症が多くアデノウイルス感染症（入院が多い）、RSウイルス感染症の入院も目立ち、麻疹（ワクチン未接種児）1例、常滑市民病院高橋先生からは胃腸炎急増し入院が多くけいれん例が目立ちロタ1名、季節外れの手足口病1名、川崎病2例入院、半田市民病院中島先生からは外来・入院共に感冒性胃腸炎がかなり多く大人にも感染することが多く入院児付添の親が罹患（12月になって急速に減少）とのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは胃腸炎は少し下火で溶連菌感染症チラホラ、RSV感染症1例入院、胃腸炎肺炎の入院が多く肺炎球菌性髄膜炎1例入院、加茂病院梶田先生からはロタ陰性の急性胃腸炎が多発（多分ノロ）、インフルエンザ、RSは未発生、マイコプラズマの入院が多く、急性胃腸炎の入院が多く痙攣数名あり、刈谷市田和先生からは嘔吐下痢症が多発したが少しずつ減少傾向で重症例はなく、水痘とムンプスが散発中、岡崎市民病院後藤先生からはウイルス性胃腸炎がピーク、再度気道感染症（肺炎）が増加、マイコプラズマ陽性の年長者が多く時に入院、原因不明の頸部リンパ節炎が散在、ロタ、アデノ陰性の胃腸炎が多い、碧南市永井先生からは感染性胃腸炎流行中で溶連菌感染症増

加、豊橋市長屋先生からはウイルス性胃腸炎の流行がやや弱まり水痘、溶連菌感染がみられるとのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2006 年 11 月 24 日（81 巻 47 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8147/en/index.html>

b 型インフルエンザ桿菌（Hib）結合型ワクチンに関する WHO 公式見解(Position Paper)：WHO のワクチン作戦専門家助言者集団による勧告。各国政府、担当機関、国際基金、製造者、医療関係者と報道担当者が対象。1) 要約と結語：Hib の世界における推定年間患者数は少なくとも 300 万、死亡例は約 38 万 6 千人、世界的に分布しているが資源不足の国々で目立っている。検査室診断確認が困難なことから報告数は過小評価の傾向がある。臨床的には 2 歳以下、特に新生児期の肺炎、化膿性髄膜炎、全身重症感染症が重要で、有効な予防手段はワクチン接種、ワクチンの有効性と安全性から乳児の定期接種に組み込まれて DTP 三混の初回 3 回と同時に接種が望ましい。2) 背景。疫学：Hib を含むインフルエンザ桿菌は通常鼻咽腔の常在菌で感染経路は飛沫感染、ワクチン普及で Hib 保有小児は急激に減少、集団免疫効果が発揮される。生後 4 - 18 ヶ月が罹患の主体で、定期接種していない国では化膿性髄膜炎の非集団発生最多原因菌であり、適切な抗生剤の早期からの投与にもかかわらず 30 - 40%が死亡、30 - 40%に後遺症が残る。他に頻度は少ないが敗血症、関節炎、骨髄炎、心外膜炎などの原因となり、先進国では声門炎も注目される。ワクチンが有効で、抗生剤に対する耐性菌の出現が大きな問題である。病原菌：インフルエンザ菌はグラム陰性桿菌でヒトだけに感染。莢膜多糖類が 6 種類。うち b 型（Hib）が重要な起炎菌で最近世界各地からアンピシリン、クロラムフェニコール、セファロsporin 耐性菌が報告されている。Hib ワクチンでは Hia 型患者は減らないというブラジルからの報告の確認が急務である。Hib の培養については熟練を要することと抗生剤投与で阻害されることが問題で、免疫学的なタイピングは特殊な器材が必要で世界的に統一されておらず、PCR 法も一般化していない。04 年、WHO はバングラデシュ、インドネシアなどで化膿性髄膜炎の検査結果をチェック：a) Hib は従来の報告以上に多いと推定される。b) この事実の確認が必要と勧告。結合型ワクチン：感染防御抗原である莢膜多糖類を破傷風トキソイドなど担体蛋白に結合、接種すると T 細胞に刺激された B 細胞が特異抗体産生。凍結乾燥品と液状ワクチン（2 - 8℃に保存すること）があり、製法については WHO テクニカルレポート 897 号に詳述。免疫原性、有効性と効果：血中 PRP 抗体濃度 $1.0 \mu\text{g/ml}$ が長期感染防御の指標。接種後の抗体反応に年齢差なし。ワクチン普及につれて前述のように個体のみでなく間接的効果として集団免疫(herd immunity) 獲得が証明されている。ワクチン初回完了後の防御性持続に関しては明確な証明は少なく、地域、年齢、接種方式、自然感染による追加免疫効果の有無などで差があると予想されるが有効性は高く、世界各地で Hib ワクチン非接種群と接種群の侵襲性罹患率の無作為対照調査が実施され、良好な結果が得られている（英国、米合衆国、ガンビアなどの報告が記載されている。(略)）。ワクチン接種：一般的には初回 3 回、DTP 初回と同時接種。生後 6 ヶ月から可能。2 回目 3 回目は 4 - 8 週間隔で DTP と同時。生後 12 - 24 ヶ月に追加接種。24 ヶ月過ぎの小児には接種不用。接種は筋注。製剤として DTP - Hib の 4 混、B 肝を混合した 5 混がある。DTP3 混と同時接種の時は注射器の中で混ぜないこと、別々に離れた

場所に接種。全身的な副作用はなく、発赤、疼痛、硬結が 25%以下、数日（DTP と同じ）。
一般的なワクチンに関する WHO の見解*：広域に接種されるワクチンは 96 年の WHO 要求に従うべきであり、Hib 追加で他のワクチンの効果を抑制しないことが必須である。
Hib ワクチンに関する WHO の公式見解：a) 安全性と有効性から乳児期の定期接種に組み込まれるべきである。b) 実態把握のためのサーベイランス網充実が急務である。

* <http://www.who.int/vaccines-documents/DocsPDF/www0637.pdf>

国際検疫病 WHO 公示。11 月 17 日 23 日届出。コレラ：ブルンジ、タンザニア、カナダ（輸入例）

2006 年 12 月 1 日（81 巻 48 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8148/en/index.html>

ポリオ。ポリオ根絶に関する助言委員会(Advisory Committee on Poliomyelitis eradication, ACPE)の結果と勧告。06 年 10 月 11 12 日、ジュネーブ：ACPE 専門家の助言。会議の目的は野生株ポリオウイルス(WPV)の世界的伝播を阻止するための計画優先性と施策。流行ポリオウイルスの国際的拡大阻止のための追加手段。WPV 伝播消失後の経口生ワクチン(OPV)中止計画。1) 国際的状況：ACPE が最も注目しているのがナイジェリアとインド・ウタールプラデシュ(UP)州。域内の WPV 流行だけでなく国内他地域への伝播や隣接諸国へのリスクが続いている。2) WPV 伝播阻止。 作戦優先順序：現在、地球規模で伝播の連鎖が二つの形で続いている。<1>地方的な伝播：WPV1 型と 3 型が 4 カ国(ナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニスタン)に常在を続けており世界におけるポリオ輸入例の 92% (うちナイジェリアが 65%、インドが 25%) を占めている。ナイジェリア、アフガニスタン、インドでは 05 年より 06 年は増加、パキスタンは横這い。<2> 輸入：03 年以降インドとナイジェリアからポリオフリーの 24 カ国に 68 例輸入。隣接国が多いが遠隔地への輸入も話題となっている。現在のところ輸入国における緊急対応で国内発生は阻止されているが、常在国がある限り輸入のリスクは続く。<3> ACPE 勧告。a) 常在国：実効性のある強力な補足定期外予防接種活動(Supplementary Immunization Activities, SIAs)を推進。WPV 伝播中断まで毎年 7 8 回実施すること。単価 OPV。b) 輸入国：伝播消失まで SIAs 実施。c) 隣接国：常在国の伝播中断まで必要に応じて SIAs。急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランス継続。単価ワクチン継続。d) 07-10 年の将来計画をたてること。 常在国の伝播中断：a) ナイジェリアが最大の問題国。特に北部の各州における 1 型 WPV。SIAs とサーベイランスの強化が最大課題。アフガニスタンでは 06 年になって南部を中心に治安悪化地域で WPV1 型が多発、隣接するパキスタンのバロチスタン州に拡大。インドではビハール州における発生は根絶されつつあるが UP 州西部では人口密集・衛生状態の不良な地区で増加。遺伝子解析からはインド、アフガニスタン、パキスタンの 1 型 WPV 遺伝子型は単一で伝播中断対策が可能である。b) ACPE の勧告：長文。上記勧告と重複。略。 WPV の国際的拡大阻止：ACPE 勧告に従うことで 03 05 年に発生した輸入例からの伝播は認められていない。具体的勧告として a) 常在地からの国際旅行者は出発前 1 ヶ月までに所定回数の OPV 接種を終了する。b) OPV 接種歴がある者は出発 1 24 ヶ月に追加接種 1 回。c) 準備期間が短い場合は出発 1 ヶ月以内に OPV1 回接種。注：会議目的 については次号に掲載。

HIV。サーベイランスのための検査方式改訂：92 年、WHO は HIV サーベイランスと診断のための検査（抗体測定）方式に関する勧告を発表、以来 WHO と UNAIDS は 97 年、01 年

に改訂、今回、新勧告を公表、これまでのガイドライン変更。主なポイントとして 2 種類の抗体測定法を実施すること。抗体測定法は ELISA 法と EIA 法。ウエスタンブロット法はサーベイランスには不適。2 種類のテストのうち、テスト 1 は検査感度 99%、テスト 2 は特異度 98%以上であること。精度管理上の重要な要素：1) 計画・組織、2) 人材、3) 一定の方式による記載と報告、4) 資材・記録のチェックが適切か、5) 情報管理、6) 作戦プロセス管理、7) 器材が適切か、8) 操作改善を半年 1 年毎にチェック、9) 内部・外部評価、10) 一連の操作の容易さと安全性、発生した問題に対する対応と情報利用者の満足度、など。材料採取から判定までのチャートあり。(注:サーベイランスのための検査方式に関する勧告のせいか ELISA と EIA が出てくるだけで PCR 法などによるウイルス量や抗体の測定法の鋭敏かつ迅速化、遺伝子検索のサーベイランスへの応用などの記載は全くなし)。

国際検疫病 WHO 公示。11 月 24 30 日届出。コレラ：マラウイ、インド。

愛知県感染症情報

2006年第49週(平成18年12月4日～平成18年12月10日)

愛知県衛生研究所

		定点数																										
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	84	32	74	385	3,384	322	62	113	96	0	0	2	1	111	0	14	2	0	5	0	0	
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	71	25	63	290	2,194	258	58	91	72	0	0	1	0	91	0	13	2	0	4	0	0	
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	13	7	11	95	1190	64	4	22	24			1	1	20		1			1			
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	15	19	4	27	97	6	2	5	6			1										
海部	津島	7	7	2	2	1			2	7	209	19			2					1		1						
尾張中部	師勝	4	4	1	1					1	42	4		1	1							2						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1			5	16	136	15		8	6							3	1					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	23	1	8	17	228	33	2	16	8					5								
	江南	6	6	1	2		28		13	19	155	27		4	6					4								
知多半島	半田	6	6	1	2	1	2		2	8	185	14	3	4	5					8		3	1					
	知多	7	7	2	2			2	9	11	157	10	13	15	3					9								
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	1			34	112	25	8	10	8					4								
	衣浦東部	13	13	2	4	1		1	10	44	162	20	21	15	6					5					1			
	西尾	5	5	1	2	1				32	155	6			4					8								
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1			5	16	170	10	3	5	4					8		3			1			
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1			4	26	169	20	4	5	7					6		1			2			
	豊川	9	8	1	2	1	2	2	1	30	193	46	2	3	6					32								
東三河北部	新城	2	2			1				2	24	3								1								

